

多様な学びの在り方について

1 定時制課程について

(1) 現状

- ①定時制課程の高校は、従来からの働きながら学ぶ場としての役割も果たしているが、不登校生徒や中途退学者、義務教育段階の学習が不十分な生徒や様々な障害があると思われる生徒等、学習や学校生活に困難を抱える生徒が学ぶ場としての役割が大きい。
- ②これらの様々な入学動機をもつ生徒に対しては、生徒の学習の状況や生活の実情、進路希望に応じた指導とともに、学校設定科目等で特色ある取組が行われているが、多部制以外では、科目選択の幅が狭く、生徒の興味関心や進路希望に応えられない場合がある。
- ③現状で在籍者数が定員を下回っている学校が多く、県内の中学校卒業生数の減少に伴う入学者定員の減が必要であることは定時制も例外ではない。また、学校の配置や種別（夜間、昼間、多部制）に関して、地域間で差異が見られる。

(2) 今後の方向性

- ①多部制定時制での取組も踏まえながら、学習や学校生活に困難さを抱える生徒が学習を継続できる体制の整備や、生徒の興味・関心、進路希望に対応できる学習環境の充実を図る。
- ②定時制課程の学習スタイルの特長や特色ある取組に関する情報発信を行う。
- ③在籍者数が定員を下回っている学校が多いことや、県内の中学校卒業生数の減少、また、地域間で学校配置に差異があるという現状を踏まえて、より学習環境の充実が図れるような適正な学校配置を行う。

学習や学校生活に困難さを抱える生徒が 学習を継続できる体制の整備	生徒の興味・関心、進路希望に対応できる 学習環境の充実
単位制の導入 定通併修の推進 ICT機器やデジタル教材の活用 転・編入制度の柔軟化	
定時制課程の学習スタイルの特長や特色ある取組に関する情報発信	
三修制 自分の生活スタイルに合わせた時間帯での学習 各校の特徴的な取り組み	
地域や生徒の実態を踏まえた適正な学校配置の検討	

2 新たなタイプの学校

(1) 現状

- ①第3期県立高校将来構想では、新たなタイプの学校を「義務教育段階の学習内容の定着が十分でない生徒等に対する学び直しをはじめとした様々なニーズに応える」学校としている。実態調査から、不登校経験者や発達障害の生徒は、県内ほぼ全ての高校、特別支援学級に在籍していた生徒は約4割の学校に在籍しており、また義務教育段階での学習内容の定着を図る取組に関しては、約半数の学校で取り組まれている。
- ②対応としては、それぞれ生徒へのアプローチの方法は異なるが、いずれも生徒の個別の状況に応じた対応が重視されている。
- ③また、これらの取組については、各々の高校で実態に応じて対応しているところであるが、他校の取組事例をノウハウとして求める声もある。
- ④2022年から成年年齢が引き下げられて高校在学中から積極的な社会参加が求められることや、ICTの進展による教員に求められる姿や学校の在り方の変化が想定されるなど、社会的な変化も大きい。

(2) 今後の方向性

- ①時代や社会の変化、生徒のニーズを踏まえて、
 - ・多様な学びの機会の提供、社会的自立に必要な能力を持った生徒の育成
 - ・個別支援に重きを置いた指導、生徒が意欲的、自律的に学べる学校づくりをコンセプトとする新たなタイプの学校を設置する。
- ②コンセプトを具現化するための手法としては、
 - ・確かな学力を身に付けるための基礎学力の定着
 - ・相談体制の整備
 - ・体験的な学びを通じた明確な勤労観・職業観の育成
 - ・学び方の多様化とする。
- ③実施方法は、第1段階として、モデル校で実施し、研究・検証、取組に関する情報発信を行う。第2段階として、県内での展開可能性を検討する。
- ④設置形態について、新設（既存校の転換含む）のほか、既存校への一部機能の付加など、より県全体に効果が及ぶような実施方法を検討する。

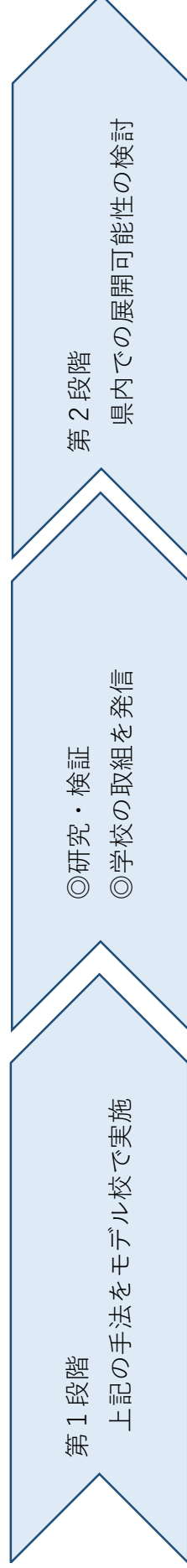
「新たなタイプの学校」について

コンセプト	①多様な学びの機会を提供し、高校での学習や学校活動を通じて、社会的自立に必要な能力を持った生徒を育成する。 ②個別支援に重きを置き、学習や学校生活に困難さを抱える生徒が意欲的・自律的に学べる学校づくりをする。	
手法	確かな学力を身に付けるための基礎学力の定着 ・教員による指導を補完する形で「学習支援員」から個別に学習支援を受ける機会を提供 ・学校設定科目やモジュール学習（※）等による教育課程の弾力化や特色化 ・習熟度に応じた少人数指導	相談体制の整備 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる心理面、生活面での支援 ・特別支援学校のセンター的機能の活用 ・学校が相談できる外部機関の紹介
	体験的な学びを通じた明確な勤労観・職業観の育成 ・インターンシップ等を通じた卒業後の進路の明確化 ・働くことやボランティア活動を通じた自己有用感の涵養	学び方の多様化 ・単位制の導入 ・他課程併修制度の活用 ・ICTの進展を意識した学習や授業の実施

※モジュール学習：通常の授業時間よりも短い時間で授業を展開する学習形態。

◎実施方法

1 進め方



2 実施形態

パターン1	新たに学校を設け（既存校の転換含む）、4つ手法をパッケージで実施する。
パターン2	既存校で、4つの手法をオプションとし、学校が必要とする手法を実施する。